

実施日：6月14日（3校時）6月16日（4校時）6月29日（2～4校時）7月5日（3校時） 2月8日（2～4校時）予定していたが、流行性感冒のため、3月に延期	
領 域：特別活動	
取組名：赤穂特別支援学校との交流事業	
対 象：1年生	実施場所：音楽室、赤穂特別支援学校の体育館や各教室
ア ねらい ・ 赤穂特別支援学校との交流を深め、思いやりの心の育成や人権教育を推進する。	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 6／14 赤穂特別支援学校とビデオ通話による自己紹介、班ごとのメッセージ交換、ダンスの練習 6／16 道徳「どうしたらいいですか」、グループ分け 6／29 赤穂特別支援学校へ訪問。校歌の交換披露、グループで交流、学校見学、クイズ大会一緒にダンスを踊る。 7／ 5 事後学習 ビデオ通話で振り返り 3月 坂越中学校で学年委員会がゲームなど企画していたが、ビデオ通話の交流に変更。	
ウ 連携先： 赤穂特別支援学校、 PTA	
エ 連携にむけての取組 事前に交流学校の教諭と打ち合わせをして、より交流が深められるように事前と事後のビデオ通話を企画した。 学校便りやPTA 広報紙、学級通信等で交流のねらいや生徒の活動について広報する。	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 ・ 平成元年から続いている赤穂特別支援学校との交流会であるが、昨年は移動手段の危険性から1回しかもつことができなかった。その反省から今年は、バスを利用することや、ビデオ通話による事前交流を行った。6月29日の赤穂特別支援学校の訪問交流を楽しみにし、より親近感が生まれ、交流が深まったように思われる。 ・ 1学期は教師が企画する形で取り組んできた。3学期の本校に赤穂特別支援学校の生徒たちを迎える交流においては、学年委員会が企画案を出し、学級会で話し合い、それぞれのグループごとに障がいについて理解をした上で、移動手段やゲーム等を考えた。	
カ 評価の方法 ・ アンケートや感想 ・ PTA 広報紙 ・ 学級通信	
キ 成果 ・ アンケート結果や感想に、「交流会が共に生きる社会をつくるために自分たちができることや障がい者に配慮すべきことなどを考える機会となった。」や「グループになった特別支援学校の生徒とどう接したらいいのかわからなかったが、交流を深めることで、自分のすべきことがわかった。」と書いている者も多くいた。人権作文でも交流会のあたたかい心のふれ合いについて書いた生徒もいて、心のバリアフリーが広まった。	
ク 課題 ・ 交流会は毎年1学年で行っている。また学校間の距離も10km近く離れているため、その後の生徒同士の交流を継続することがなかなかむずかしいのが、課題である。また2回目の交流会は、冬の寒い時期になるので、流行性感冒などの理由で欠席者が多かったり、学級閉鎖等で実施できない年もある。	